

指針策定へ検討組織

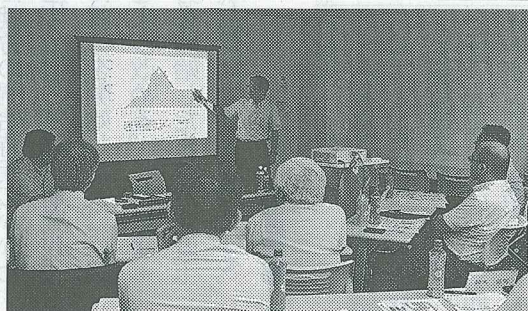
泥土リサイクル 年度末までに成案化

廃石こうボード再利用

解体建築物の廃石こうボードを砕いた石こう粉を地盤・土壌改良材などとして安全に再利用しようとして、泥土リサイクル協会や大学、ゼネコン、建設コンサルタントなどが再生・再利用のガイドラインを策定する検討組織を立ち上げた。7月31日に東京都内で「再生石膏粉の有効利用ガイドライン策定委員会」（委員長・佐藤研一福岡大工学部教授）を開催。来年3月までに再利用の評価軸となる指針を作成することを決めた。

初会合では、解体した建築物から石こう板を安全かつ効率的に回収する手法などを話し合い、来年3月までに指針を打ち出すことを決めた。メーカーで実際に指針を運用し、製品化に

安全にリサイクルを進められるよう「混ぜると危険な材料を指針に明示する必要



再利用の指針作成に向けて議論を開始した委員会の初会合は7月31日、東京都内で

があるなどの意見が出た。解体した建築物などから出る石こうボードは年々排出量が増加しているが、再生品の品質にばらつきが生じるなどリサイクル技術が確立していない上、環境面の安全性が担保されていないことなどにより再利用が遅れている。

そこで泥土リサイクル協会やメーカーなどは昨春、廃材再利用の統一的な評価軸を作ろうと、ガイドライン策定委員会の前身となる全国石膏ボードリサイクル協議会を設立。品質管理や環境評価などの手法を検討してきた。

ガイドライン策定委員会の参加者（委員）は、▽国立環境研究所▽土木研究所▽山口大学▽福井工業高専▽東京理科大▽フジタ▽大成建設▽清水建設▽応用地質▽日本工営▽全国石膏ボードリサイクル協議会▽建設廃棄物協同組合▽泥土リサイクル協会（事務局）。

役立てる。

席上、佐藤委員長は「年に200万〜300万ト程度出ている再生石こうを有効活用する上で統一的な評価軸が必要だ」と話した。委員からは、メーカーらが